

(様式)

平成21年度 府立刀根山高等学校 学校評価報告書

府立 刀根山高等学校
校長 梅景 一雄

1 めざす学校像

刀根山高校の4つの教育方針を柱とする
1. 学力の向上を図る
2. 希望進路の実現を図る
3. 行事・部活動の充実を図る
4. 基本的な生活習慣の確立を図る

2 本年度の教育目標

3つの重点取り組み
1. 環境教育と美化 「一緒に学校環境を、地球環境を考えよう」
2. 学ぶ力 「ともに平常から、しっかりと授業に取り組もう」
3. 生きる力 「規律ある、充実した学校生活を送ろう」

3 本年度の取組み計画及び自己評価

領域	具体的な取組み計画 (成果指標) [平成21年5月 記入]	取組み状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	生徒が平常から授業にしっかり取り組むことが、「確かな学力」をつけて「希望進路の実現」に向かう基本である。 ・ 授業への入りを大切にし、「ベル着」をさらに推進する。 ・ 年2回の授業研修を継続し、「授業力」を高める ・ 授業アンケートを年1回行い、生徒の意欲に教職員の授業力で応える ・ 「職業ガイダンス」、「学部・学科説明会」、「大学説明会」等を通じ、進路意識を高める。	・ 5月にメロディチャイム（1分間）を導入。生徒・教職員の授業へ向かう目安となり、授業への入りが早くなった。 ・ 6月に1回目の授業研修を実施し、各教科で協議の上、結果を職員会議に報告した。 ・ 1学期末に生徒の授業アンケートをとり、結果について集計、分析。 ・ 1年生向けに9月に職業ガイダンスを実施し、進路を考えるひとつのきっかけとした。	
(2) 生徒指導等	平常の生活指導に始まり、規律ある学校生活を送ること、送れるよう指導することは、授業へ向かう姿勢に結びつく。 ・ 教職員全体で平常の遅刻防止と制服・頭髪指導を行う。 ・ 学校行事活動、クラブ活動と授業・家庭学習をともにしっかり両立させた学校生活を送れるよう、担任、特活部、クラブ顧問が協力して指導する。 ・ 担任、学年、保健部が連携し、教育相談機能の充実を図る。	・ 教職員による登校時の遅刻防止指導を継続しているが、1学期の遅刻数は前年を若干上回る状況にある。 ・ 行事日、行事準備日、並びに平常のクラブ活動時の完全下校時間（6時）をしっかりと指導し家庭学習を促している。 長期休暇時のクラブ活動時に、練習の前後の時間を学校（講習、自習）などでの学習に宛てるよう促している。 ・ 教育相談について教職員研修（心療内科医師）	
(3) 学校運営等	・ 学校経営委員会を教育目標や重点取り組みの協議の場として活用する。 ・ 原則毎週の首席連絡会—学校経営委員会—校務運営委員会を通して情報の共有化を図り、教職員のコミュニケーションを活発にし、推進する。 ・ 近隣地域の学校、各団体と交流を継続して行い、学校の活性化につなげる。 ・ P T Aの意見、活動力を学校経営に生かす。 ・ 安全点検を継続し、併せて設備の改善を手がける。	・ 前年度末より「刀根山生」の変化に対応する取り組みを討議し、今年度の重点取り組みや教育計画を策定した。 ・ 各連絡会、委員会で重点取り組みに関連した事業への参画することを確認し、4つの事業への取り組みを立案した。（3つが採択された） ・ 刀根山地区の各団体の主催イベントに各クラブや代表者が参加、交流を深めた。地域の3自治会との意見交換を行った。 ・ 安全点検と不要物の整理を行った。	
(4) 追加項目	「環境と美化」の取り組みを大阪府の学校提案型個性化推進事業（G P事業）を活用して3つの柱で推進する。 ・ 裏山（里山林）を舞台に近隣地域を交えて生物に触れ合う機会を通し、自然に対する感性を育む。 ・ 学校生活を送る中で学校環境や地球環境を考える教育機会を繰り返し設け、エネルギー（電気、水道、ガス）の使い方や資源のリサイクルを考えて行動する生活習慣を身につける。 ・ 教室や校内の美化・整備を生徒とともに考え、実行する。	・ 学校重点目標の一つの柱を「環境教育と美化」とし、それがG P事業として採択された。また黒田緑化事業団の寄附事業に応募し、さらなる緑化整備が出来ることになった。 ・ 校内のエネルギーの使い方を年度当初より気をつけることを生徒、教職員に呼びかけ、前年度より節約の効果が見られている。 ・ 環境について生徒アンケートを実施し、ゴミのリサイクルの取り組みを改めて準備した。	

4 学校教育自己診断における結果と分析

[平成 年 月 実施分]

*実施対象（教職員 ・ 児童・生徒 ・ 保護者 ・ その他）

5 学校協議会における提言内容

第1回（7月17日）
1. 授業力：大学における講義の自己評価の取り組みの紹介を受けた。 授業アンケートをとる場合は、評価が目的ではなく、アンケートの声に答えること、生かすことが大切であると指摘を受けた。
2. 授業研修：中学校の取り組みで、授業中の子どもの様子をビデオに収め、生徒の学びについて検討を行うプロジェクトに取り組んでいることの紹介があった。教諭にとってビデオで見ることで自分の授業を客観的に見ることが出来、繰り返し実施することで、自分の癖が見えるなどと好評であるとのこと。
3. 地域連携：小中学校は地域の生徒が通っているので、親近感があるが、高校は校区内の生徒が少ない。その意味でしっかりと地域と連携し、交流を深める取り組みが大切である。